

「いつもとちがって見えた景色」

河原田小学校 五年 遠藤 有華

わたしは今年の七月に自然体験学習でキャンプに行きました。そこで、たくさんの楽し
い思い出ができました。わたしが体験した中
で一番バに残っているのは、夕食作りでした。
夕食作りのメニューは、カレーでわたしはか
まどたん当になりました。水の量などで米が
出来上がる時間が変わるのでとてもむずかし
かったです。そして、やどがまどが使える

と思ったら木や風の調節などがある。でも
大変でした。風を送りすぎても火が弱くな
てしまうし、木を燃やしすぎても空気の通り
道が無くな。て火が消えてしまいます。調度
よくするため、何度も注意しながらくり返
して、みんなあせをたらしながらやりました。
そこに、ボラコテ、アに来てくれていた方が
っこうやってあせをたらしながら走って取り
に行く木で出来上がった。たごはんはいつもとち
がう味なんだよなあ」と教えてくれました。

その言葉を聞いたみんなはやる気を取りもどして、おいしく食べられるようにがんばりました。するとかまどから少しづつこうばしいにおいがしてきました。ドキドキしながら飯合のふたを取ったら白いごはんができていました。今まで気がつかなかったけれど始めてから一時間ぐらいたっていました。みんな出来上がった白いごはんを見ると自然と笑顔になっっていました。わたしたちのお米は、少しこげていたのでおいしかとても心配でした。

カシーが出来上がったのでお皿にごはんとかしーを入れました。食べてみるといつも家や学校で食べてるカシーライスとは、少しちがっていました。何でだろうと不思議に思いながら食べていく間に、いろいろなことに気づきました。いつもはボタコーンとおせは出来るごはんも、こうして時間をかけてゆっくりにいたごはんでは、作るまでの達成感がちがいました。いつもは当たり前のようにある白いごはんだけでも、こうして食べられるのに

は、農家の人がお米を育ててくれたり、お母さんたちが作ってくれて食べられるのが改めて分かりました。そしておいしいごはんが食べられることを、感しゃしながら食べました。少しこげていたけれどもそれが逆にがんばって作ったという気持ちにながってとてもおいしかったです。食卓にいるみんなが「おいしい」「うまい、最高」と言っていたのでうれしさとほっとした思いがこみ上がってきました。それから、社会の時間でごはんを食べる人が少なくなっていることを思い出し、

帰りのバスの中から見えた田んぼの景色はいぬに太陽の光が当たってキラキラ光っていました。不思議といつもよりきれいに感じました。帰ったら、体験学習の話聞いてもらいながら、家族でごはんを食べたいです。それからごはんのおいしさと大切さを伝えていきたいです。